

船舶事故調査報告書

令和6年7月24日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	転覆
発生日時	令和5年10月29日 10時32分ごろ
発生場所	石川県七尾市祖母ヶ浦漁港 祖母ヶ浦港東防波堤灯台から真方位248°90m付近 (概位 北緯37°10.1′ 東経137°02.0′)
事故の概要	プレジャーボートGenielは、帰航中、転覆した。
事故調査の経過	令和5年11月9日、主管調査官（神戸事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート Genie、1.5トン
船舶番号、船舶所有者等	240-64150石川、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、二級小型
負傷者	なし
損傷	船尾トランサムに割損、船外機に濡損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北東、風力 2、視界 良好 海象：波高 約0.5m、水温 約22℃
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、同乗者1人を乗せ、船外機を中立として漂泊し、船長が右舷船尾部に座り、同乗者が左舷船尾部に座って釣りを行っていた。</p> <p>船長は、釣りをしていたところ、船尾甲板上に波がブルワークを越えて流入し始め、本船の船尾トリムが進んでいることに気付き、沈没するかもしれないと思ったので、118番通報して救助を要請し、帰航を開始した。</p> <p>本船は、帰航中、船尾甲板上に更に波が流入して船外機が停まり、同乗者が左舷側に傾いていると思って右舷側に移動した直後、右舷側に転覆した。</p> <p>船長及び同乗者は、海中に投げ出された後、漁港で本事故を目撃して来援した漁師の漁船により救助された。</p> <p>本船は、来援した海上保安部の管理機動艇により出航地へえい航された。</p> <p>修理業者は、本事故後に本船を上架した際、右舷船首部外板の喫水線上部に約10cmの亀裂を認めた。</p> <p>船長は、本事故の約1か月前に本船で帰航中、右舷船首部を微速力で消波ブロックに接触させたことがあったが、衝撃が小さかったので大きな損傷はないと思い、本船を上架して点検しなかったため、甲板下の亀裂に気付かなかった。</p> <p>船長及び同乗者は、救命胴衣を着用していた。</p>

<p><b>分析</b></p>	<p>本船は、右舷船首部外板に亀裂が生じていた状況下、船長が同亀裂に気付かず出航したことから、海水が同亀裂から甲板下に浸入し続け、船尾トリムが進み、船尾甲板上に波がブルワークを越えて流入して転覆したものと考えられる。</p> <p>本船は、海水が甲板下に浸入し続けていたところ、乗船者2人が船尾部に座って釣りをすることで本船の重心が船尾部に偏ったことから、船尾トリムが進んだものと考えられる。</p> <p>船長は、本事故の約1か月前に本船で帰航中、右舷船首部が微速力で消波ブロックに接触した際、衝撃が小さく、本船を上架して点検しなかったことから、右舷船首部外板に亀裂が生じていたことに気付かなかったものと考えられる。</p>
<p><b>原因</b></p>	<p>本事故は、本船が、右舷船首部外板に亀裂が生じていた状況下、船長が、同亀裂に気付かず出航したため、海水が同亀裂から甲板下に浸入し続け、乗船者2人が船尾部に座って釣りをすることで船尾トリムが進み、船尾甲板上に波が流入して転覆したものと考えられる。</p>
<p><b>再発防止策</b></p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 船長は、船体が消波ブロック等の障害物に接触した場合は早期に上架するなどして損傷状況を詳しく確認するとともに、必要な修理を行うこと。</li> </ul>